11 名勝玉淀

秩父山地から関東平野に流れ出る荒川が作り出した特徴的な地形で、奇岩・絶景の景勝地として昭和10年に県指定の名勝となる。その名は、水がゆるやかに流れる様を玉の色に見立て、「玉のように美しい水の淀み」だということから命名された。

12 寄居北條まつり

500人を超える武者隊が寄居の市街地から会場の玉淀河原までを練り歩く。1590年の北条・豊臣軍の戦いを再現した攻防戦は一見の価値あり。荒川から放たれる大砲の轟音は、観客を戦国時代へと誘う。
5月中旬の日曜日開催

13 寄居玉淀水天宮祭

昭和6年から始まった寄居を代表する祭り。荒川を漂う舟山車と花火の競演は都心部の花火大会にはない趣を感じる。最大の魅力は花火の近さと音。ぜひ一度会場に訪れ、その迫力を味わってほしい。
8月第1土曜日開催

14 鮎料理

寄居の荒川では毎年6月1日にアユ釣りが解禁となる。埼玉S級グルメ店に認定されている「京亭」では鮎料理が提供され、その味と香りを楽しめる。
京亭　℡048-581-0128

15 寄居夏まつり

寄居の市街地の八坂神社例大祭の付け祭り。6台の勇壮かつ華麗な御輿が、無病息災と豊作を祈りながら、町内ごとに勇姿を競い合い、市街地を練り歩く女性みこしや子供みこしも巡行する。
7月第2日曜日とその前日の土曜日開催

16 寄居秋まつり

寄居の市街地の宗像神社秋季例大祭の付け祭り。本町、中町、栄町、武町、茅町、宮本、常木の山車の曳きまわしが行われる。各町の山車は大変歴史のあるもので、江戸末期から新しいものでも明治初期につくられたものと伝わっている。
11月第1日曜日とその前日の土曜日開催

17 ふるさとの祭典市

中心市街地の活性化と地域に暮らす人々の交流の場をつくることを目的に、市街地通りで開催される一大イベント。ホンダ寄居工場の立地をきっかけに始まった寄居町交通安全クラシックカーパレードも同時開催される。
11月中旬の日曜日開催

18 雀宮公園

紅葉の隠れたスポットとして人気の雀宮公園。七代目松本幸四郎の別邸があったとされ、現在は雰囲気を模した四阿が作られるなど、整備が行われている。

19 ふるさと文学碑歩道

玉淀は古くから多くの文人墨客が訪れた場所で、その足跡は句碑や詩碑として荒川沿いに残されている。宮沢賢治が盛岡高等農林学校2年生の時に寄居町を訪れ、玉淀の美しい風景を歌った歌碑も建っている。

20 正龍寺の玉垂のカエデ

幹は自然のままによく屈曲し、枝先は垂れ下がり優雅な樹形を誇り、まさに「天然の盆栽」のような姿だった初代のカエデは枯死してしまったが、現在は株分けした2本の後継木が順調に育ち、東側のカエデは推定樹齢約90年、西側が60年ほどいわれる。

21 善導寺の百人一首画格天井

寛永3年（1750）の善導寺再建の時に描かれたと伝わる狩野派の絵師による天井画。肖像画と作歌が描かれたものが100枚、龍の絵が描かれたものが8枚ある。

22 花園城跡

二重の竪堀を特徴とする山城で、一部に石積みが残る。後北条氏時代は、鉢形城の支城として、秩父谷への街道を押さえる機能を果たしていたといわれている。

23 少林寺の五百羅漢と千体荒神

少林寺の裏山の五百羅漢（石仏）と千体荒神石碑の多くは、天保年間江戸、深川の信徒によって寄進されたものである。埼玉県下でも保存状態は良好であり、作者は江戸石工によって作られたものや寺で作られたものもあるという。

24 御嶽山

入口には御嶽神社の鳥居があり、山頂まで登ることができる。山頂には2体の狐が出迎え、多くの石碑が安置されており、厳かな雰囲気が漂う。本宿区の方々によって大切に整備されている。

25 円良田湖

寄居町と美里町にまたがる南北に長い人造湖。言わずと知れたヘラブナ釣りのメッカであり、11月からの冬の間はワカサギ釣りが楽しめる。

26 西行戻り橋

末野の逆川にかかる橋。高名な歌人でもある西行法師が、和歌の修行にやってきた時、この地で少年少女が難しい歌をたやすくつくるため、自分はまだまだ修行が足りず恥ずかしいと言って、この橋から戻ってしまったという伝説が残されている。

27 金山温泉

かんぽの宿寄居の天然温泉。最上階にある展望露天風呂からは、秩父の山並みを満喫できる。1999年に開湯した天然温泉は、ハイキングで疲れた体を癒すにちょうどいい。
かんぽの宿寄居　℡048-581-1165

28 レトロな駅舎　波久礼駅

レトロな佇まいの秩父鉄道線の波久礼駅。みかん狩りやハイキングなどの玄関口。

29 白髪神社の獅子舞

この獅子舞は古来より金尾白髪神社の大祭の付け祭りとして奉納されたものと言われている。かね・笛・太鼓の囃しに口上が加わり、ときに静かに、また勇壮に、ユーモアも交えた、古き良き、祭りにふさわしい素朴なものである。4月下旬開催の金尾山つつじまつりでその姿を披露している。

30 金尾五井戸

藤井戸、梅の木井戸、笹原井戸、杉の木井戸、高柿井戸の五つの井戸からなり、生活の中での水利用を伝えている。写真は藤井戸。

31 金尾のつつじ山

金尾山は町の西部に位置し、「つつじやま」とも呼ばれ、3haの山に約5千株ものつつじが自生し、4月中旬から5月上旬まで、真っ赤な花で燃え立つ景観は、関東有数であると評判。また、11月ごろの冷え込んだ日の朝には、秩父方面から流れてくる朝霧に包まれ、神秘的な雰囲気となることも。

32 夫婦滝

風布川が玉淀湖に合流する手前、落差約3m、2筋の滝が寄り添うように流れ落ちることから、夫婦滝と名付けられた。風のみち休憩地には夫婦滝にちなんだ「愛の鍵架け場」があり、鍵を架ければ2人の絆も固く結ばれる。

33 風のみち遊歩道

高柿新橋から風布川に沿い、日本の里を経由し、中間平緑地公園までの約3.4㎞の道のりを飛び石づたいに風布川を渡るなど、清流を楽しみながら森林に触れ、自然を満喫することができる遊歩道。

34 天狗岩

お詣りすると天狗が干天時この地方へ雨を降らすとの伝説のある巨岩。風のみち遊歩道の途中にある。

35 姥宮神社のカエル

姥宮神社は通称「うばみや」で、この周辺では、大きなヒキガエルのことを、「ウバゲットク」と呼び、「ウバ」の語呂合わせから、狛犬に代わって大蛙が鎮座している。

36 日本の里

日本水のシンボル施設である日本の里。水車小屋があり、風布川沿いでバーベキューを楽しむことができる。地産地消をテーマにした家族みんなで楽しめる里山のレストラン「風布館」では、名水百選の日本水を使ったコーヒーやそば・うどんも提供している。
日本の里風布館　℡048-581-5341

37 沢ガニ

沢ガニは名水百選の風布川など水のきれいなところに生息している。

38 寄居のみかん

寄居のみかん栽培は400年以上の歴史を持つとされ、10月下旬から12月中旬までのみかん狩りシーズンには、多くの観光客で賑わう。昔ながらの甘酸っぱい味が特徴で、町内で栽培されたみかんを使用した、みかんジュースなども作られており町の特産品の一つとなっている。

39 琴平神社の聖観音立像と秩父事件顕彰碑

秩父事件は明治17年に秩父地方を中心に起こった自由民権運動の一つである。その決起の日の集合場所として知られる琴平神社には、聖観音立像と秩父事件顕彰碑が建てられている。

40 日本水

その昔、日本武尊が東征の折、戦勝を祈願して釜伏山中腹の「百畳敷岩」と呼ばれる大岩壁に剣を突き刺したところ、たちまち湧き出したという伝説のある名水。昭和60年に環境庁(現在の環境省)から「風布川」とともに名水百選に認定された。
※源泉は現在立入禁止。日本水取水所で水を汲むことができます。

41 釜伏峠のイロハモミジの並木

標高582mの釜伏山は、山のかたちが釜を伏せたように見えるところから名付けられた。釜伏峠は、寄居地方と秩父盆地を結ぶ峠として、古くは鎌倉時代から人の往来があったといわれている。11月下旬ごろ釜伏峠で見ることができる紅葉は、普段の神秘的で厳かな雰囲気から一転、紅葉の赤で賑やかに染まる。

42 釜山神社のオオカミ

釜山神社は秩父地方に存在するオオカミ信仰の神社の一つで数対のオオカミの像がある。作成年代の違う様々な造形のオオカミは表情も豊かで味わい深い。

43 玉淀ダム

1964年完成、6ゲートを持ち農業用水の取水も行う水力発電施設。一般家庭約4,900軒分の発電を行う。放水時は迫力満点。ダム湖は玉淀湖と呼ばれ、秋には紅葉も楽しめる。
玉淀ダム（東京発電㈱埼玉事業所）　℡048-581-1133

44 鐘撞堂山

戦国時代、鉢形城の物見山として異変が起こった時に鐘を撞いて知らせたことからこの名がついたといわれている。標高330m、寄居町と深谷市、美里町の分岐点で、山頂からは寄居の町並や関東平野を一望できるすばらしい眺望が広がる。

45 大正池

鐘撞堂山の登山口の付近にある大正池。四阿や観光トイレもあり、登山者の憩いの場。水面には桜沢の山々が映し出され、四季折々、様々な顔を見せる。

46 山崎の道祖神像

桜沢コミュニティセンター付近にある道祖神。住民による手づくり石彫。約30体あり、山崎区民有志によりつくられた。その像は表情豊かで見る人に笑いかける。

47 本村の獅子頭

本村区の祇園行事に使われる獅子頭は、幅45cm、高さ43cmで重さ5kgもある大きなもので宝永元年(1704)に製作されたものである。現在では、地元の夏まつりで獅子頭が区内を回り、頭を噛んでもらった者は、一年間健康に過ごせるといわれている。

48 岩崎の延命地蔵尊

岩崎区にある延命地蔵尊。幼くして両名を失明しながらも修行を続けた浄眼禅人によって安置された。延命地蔵菩薩の座像は約40cmで荘厳な雰囲気をもつ。

49 中間平緑地公園の紅葉

階段や通路が整備された森の中を散策できる公園。総面積5haの敷地内に桜やモミジなど様々な樹木が立ち並ぶ。紅葉は11月中旬ごろから楽しめる。

50 中間平からの夜景

中間平緑地公園の展望デッキから町の夜景を見ることができる。寄居の市街地からも車で15分程で、街灯もなく、夜景と星空、両方が楽しめる。

51 中間平の梅

折原の秋山区に多く栽培されている梅。3月頃になると里山いっぱいに梅の花が広がる。

52 寺山さくら農園

一年中桜に出会える町よりい実行委員会を中心に地元の有志の方々により整備された桜の名所。自然豊かな里山に陽光桜など様々な品種の桜が植えられている。

53 川瀬祭り

佐太彦神社の川瀬祭りは、荒川水系最下流の川瀬祭りとして知られ、荒川の中まで神輿を担ぎ入れ、川中に設けられた神座に安置し祭典を行う伝統的な形式が今もなお受け継がれている。
7月中旬の土・日曜日開催

54 里の駅アグリン館

地域農業の活性化を目的に作られ、お菓子やジュースの加工ができる。ホール外壁のフレスコ画には、グリム童話の白雪姫や7人の小人らが、寄居町の里山をイメージした背景の中に生き生きと描かれている。
里の駅アグリン館　℡048-577-3743

55 大岩がそびえる白髭神社

三品区の石尊山にある神社。神社本殿の隣には折原郷土かるたの一首「重忠が残す三品のひずめ石」とあり、祠のある大岩がそびえている。

56 寄居のぶどう

綺麗な水と新鮮な空気で育った様々な品種のぶどう狩りを楽しむことができる。開園時期は毎年8月上旬から10月上旬頃まで。直売も行っており、家族やグループで楽しめるぶどう園。
神田ぶどう園　℡048-581-6267
建川ぶどう園　℡048-581-6281

57 折原郷土かるた

「折原郷土かるた」は、折原の自然、歴史、風物が読み込まれており、地域の方々の折原に対する思いや願いを味わうことができる。かるたに読まれた場所にはかるたを模した看板が立っている。

58 實聞寺のたわし地蔵

悪いところをこすって治すたわし地蔵。お礼に新しいたわしを奉納する風習も。

59 吉定寺の銅鐘

この銅鐘には、当時この地方の代官をしていた日下部兵右衛門吉定が自ら開基した吉定寺に寄進したと刻まれている。県内において、近世初頭以前のものとして貴重であり、また、徳川家康の関東入国直後の鉢形領経営にあたった日下部氏の奉納銘があるなど、興味深いものである。

60 稚児岩

北条氏の青年武士と錦姫との恋の伝説が残る大岩。この男女の赤ん坊が生まれたという岩は今でも「稚児岩」と呼ばれている。

61 はしか橋

この橋は昔から「はしか」にかかった人がくぐると治ると言い伝えられ、この噂をききつけた大勢の人が集まったといわれている。五ノ坪区の川にかけられていた橋であったが、道路工事に合わせ現在の場所に移設された。

62 深沢川の四十八釜

昭和33年に町指定名勝となった四十八釜は、自然の作用によって川底の岩にできた深淵を釜穴と称したものが48ヶ所あり、数々の伝説の残るスポットである。

63 漆蒔絵鼈甲小箱

この小箱は藤田康邦の娘である大福御前が使っていたと伝えられている。高さ約6cmの鼈甲製で、蓋付三重の小箱であり、蓋の表には「竹に虎」、周りには紅葉の散葉などが金蒔絵にて描かれている。室町末期の製作。
※現在公開されていません。

64 鉢形城歴史館

国指定史跡である鉢形城跡のガイダンス施設である鉢形城歴史館。鉢形城の復元模型や貴重な資料が展示され、ビデオなどで鉢形城の歴史を学ぶことができる。
鉢形城歴史館　℡048-586-0315

65 氏邦桜

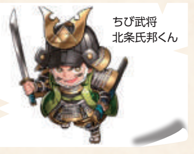
鉢形城のシンボルツリー。3月末になると笠鉾状の枝一杯に花が咲き誇り、下から見上げると淡紅色の花と青い空とのコントラストが美しいエドヒガンザクラ。樹高18m、枝張りは東西23.5m、南北21.8m、根回り6.5m。満開の時期にはライトアップも行われる。

66 鉢形城跡

鉢形城跡は、断崖絶壁の上に築かれていて、天然の要害をなしており、戦国時代の代表的な城郭跡として、昭和7年に国指定史跡となった。「日本100名城」(平成18年、日本城郭協会認定)のひとつとして、多くの城郭ファンにも親しまれている。

67 北条氏邦

鉢形城領主で小田原の北条氏政、八王子の北条氏照と兄弟。天正18年（1590）の豊臣勢に攻められた際には、戦況を見極め、早くから豊臣氏に城兵の助命嘆願し、無血開城するなど、多くの家臣、領民を思う武将であったと伝えられている


ちび武将
北条氏邦くん

68 関山と内宿の山車

鉢形の関山区と内宿区で開催される八幡神社秋季例大祭。祭りでは、2台の山車の巡行が行われ、祭囃子が奏でられる。関山の山車は「女山車」、内宿の山車は「男山車」と呼ばれている。
10月中旬の土・日曜日開催

69 和モダンな駅舎　鉢形駅

2015年、駅舎がリニューアルされた東武東上線の鉢形駅。新しい駅舎は、埼玉県立川の博物館の水車小屋をイメージしたもので、カワセミ、巨大水車、荒川がデザインされたロゴマークも制定された。入口の暖簾や落ち着いた色使いの外観は温かさを感じる。

70 鉢形陸橋の陶板

鉢形駅近くにある国道254号線の陸橋。両側に味わい深い手作りの陶板が飾られている。

71 かわせみ河原

春から秋にかけて、週末にはカヌーやオートキャンプを楽しむ人たちでいっぱいになる。バードウォッチングをすれば、名前の由来であるかわせみに出会えることも。

72 埼玉県立川の博物館の大水車

日本最大級の大きさの大水車。玉淀大橋から見える大水車は開館以来、川の博物館のシンボルとして、町民に親しまれてきた。2004年に岐阜県の直径24mの水車が完成し、日本第二位の大きさとなったが、大改修が行われ、2019年夏ごろ日本一の大水車として新たに返り咲く。
埼玉県立川の博物館　℡048-581-7333

73 貝がら渕

鉢形の小園区付近の地層は「小園層」と呼ばれる。荒川が大きく流れを変える場所に切り立った崖があり、砂岩や泥岩の地層が良く見られる。カキの化石も見られることから、俗に「貝がら渕」と呼ばれている。
※写真は対岸から撮影したもの

74 滝音の聴こえる春日神社

露梨子区にある春日神社。近くには塩沢川が流れ、不動滝の滝音が響く。樹木に囲まれており、夏も涼しく地元の癒しスポット。

75 天神山遊歩道

かつては男衾の天神社が祀られていた天神山。鎮守の森として地元から親しまれており、三ケ山方面からの登り口は階段が続き、登り切るとなだらかな遊歩道が続く。頂上に立てば、眼前に寄居の市街地、そして関東平野、さらには北関東の山々まで雄大な景色が一望できる。

76 三ケ山の桜

埼玉県環境整備センターの防災調節池の周囲に植えられている桜並木。町内でもあまり知られていない桜スポット。
三ケ山緑地公園の利用時間　午前8時～午後5時30分

77 菅原道真公の天神社

通称一之字山と呼ばれた天神山の山頂西端に鎮座していたが、戦時中に現在の場所に遷座された。祭神の菅原道真公は学問の神様として親しまれている。

78 昌国寺の水野家一族の墓

北条氏邦に仕えた水野新右衛門長勝によって開かれた昌国寺。長勝は徳川家康と従兄弟という関係から鉢形城開城後も男衾郡赤浜などの合計800石の地を割り当てられた。昌国寺には長勝の一族の墓石や五輪塔が建っている。

79 常楽寺のハクモクレン

寄居七福神のうち家門繁栄、商売繁盛の福を授ける「恵比寿神」の像が安置されている常楽寺。寄居の名木であるハクモクレンは幹回り約3mにもなる巨木である。3月下旬にはきれいな白い花が咲き、春の訪れを感じさせる。

80 赤浜中戸のヤブツバキ

このヤブツバキは樹冠はドーム状、樹勢も良好な巨木で町の天然記念物に指定されている。徳川三代将軍家光の弟の駿河大納言忠長が家光の怒りにふれ、幽閉される高崎城に向かう途中にこの地で休憩した時、ツバキが落ちるのを見て「自分もこうなるのか」と嘆いたという悲しい伝承が残る。

81 出雲乃伊波比神社の湧き水

出雲乃伊波比神社は、昔は荒川に近い場所にあったが、水害のため鉢形城主北条氏邦合議の上、天正8年(1580)に現在の場所へ遷座した。元の場所の南方には「宮の井」と呼ばれる井戸があり、水が湧き出している。

82 谷津の石碑

鷲丸山は山頂に浅間社の祠を建てられ、江戸時代より盛行した富士山信仰の対象として伝えられたが、工場の立地に伴い、現在では山中に散在した鷲丸浅間社をはじめとした祠と供養塔が1ヶ所に遷座されている。

83 大日堂の曼荼羅板石塔婆

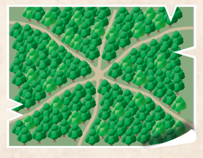
この板石塔婆は高さ136cm、幅75cm、厚さは6cmであり、胎蔵界大日如来を示す梵字が刻まれている。「寛元元年(1243)」の記念銘があり、町内に現存する中では最古である。

84 男衾自然公園

山の整備から手入れの全てを男衾地区のボランティアが手掛けている自然公園。四季折々、様々な草花が咲き、地元の名を冠した「男衾桜」も植樹された。頂上からは寄居の町並が一望できる。

85 六道の辻

おぶすまトンボの里公園と男衾自然公園を結ぶハイキングコースの分岐点。その地点は、各方向へ六つの道が伸びていることから「六道の辻」と呼ばれる珍しい場所である。



86 おぶすまトンボの里公園

寄居町にトンボ公園を作る会が整備・運営を行っているおぶすまトンボの里公園。オニヤンマ、ヨツボシトンボ、サラサヤンマ、キイトトンボなど町内でも珍しいトンボが生息している。園内に入ると自然を満喫できる。

87 寄居大凧揚げ

毎年元旦に開催される寄居大凧揚げ。「今市竹とんぼの会」、「牟礼有志の会」の大凧が披露される。新春の空に希望をのせた大凧が舞い上がる。

「今市竹とんぼの会」の大凧

「牟礼有志の会」の大凧

88 双体道祖神

この道祖神は、高さ54cm、幅28cmの男女2体の石像である。村の中心に置かれており、病気回復、子孫繁栄、良縁縁結、旅行安全などをの信仰の対象となっていたと考えられ、長く地元の人達に大切に守られてきた石仏である。

89 今市のハナダイコン

4月ごろ今市区の林の中に咲くハナダイコン。木々の隙間から光が差し、紫色の花が一面に咲き、幻想的な光景が広がる。

90 春の男衾の風景

男衾地区の市野川と吉野川。春には川沿いの桜が咲き誇り、美しい風景を作り出す。また、秋にはヒガンバナと稲穂の景色も美しい。

91 鷹巣小学校跡地の記念碑

明治10年11月に創立した男衾の鷹巣分校。明治18年に花岡学校と合併して男衾学校と改称するが、明治34年に東男衾小学校になる。現在は「男衾小学校分校遺地」と書かれた碑が残る。

92 三嶋神社のヤブツバキ

三嶋神社社殿の左側に3本のヤブツバキがあり、町の天然記念物の指定樹は中央に位置する株で、樹高13.8m、目通り1.35m、根回り3mの樹勢の良好な巨木である。

93 鎌倉街道

鎌倉街道の遺構は各地に残っており、「小川町～今市～塚田～赤浜～深谷市～用土～美里町」のように通っていた。源頼朝が鎌倉に幕府を開いてから、後北条氏が滅びるまでの約400年間主要道路としての役割を担ったといわれている。

94 普光寺の元三大師祭

1200年以上の歴史を持ち、「塚田の大師様」の愛称で住民に親しまれているお寺。毎年1月3日には元三大師祭が執り行われ、多くの方々が開運厄除けの祈願に訪れる。護摩木を燃やして炎が炊き上がり、本尊に願いを祈る。

95 青岩礫岩

約1億2000万年～9000万年前に地下深くできた結晶片岩が、約1500万年前に急激に隆起して海岸の崖になり、ガラガラと崩れたすぐそばで堆積して礫岩となったもので、世界的に類例を見ない貴重な地質現象。

96 蓮光寺のボタン

寄居七福神のうち子孫長久、家庭円満の福を授ける「布袋尊」、幸福、財宝、長寿の福を授ける「福禄寿」の2体の黄金像がひときわ目を惹く蓮光寺。境内には多くのボタンが植栽され、4月下旬～5月上旬に見ごろを迎える。

97 諏訪神社の獅子舞

この行事は江戸時代から始まったとされ、雨乞いや悪病流行の際に行われた。美しい笛、太鼓の音につれて勇壮な獅子が舞うさまは、なつかしいふるさとの情景である。
10月中旬の土・日に開催

98 ユニークな駅舎　用土駅

ユニークな駅舎のJR八高線用土駅。用土コミュニティステーションが併設され、絵画などを展示するギャラリーにもなっている。

99 円筒分水

円良田湖から鐘撞堂山の地下を通ってきた農業用水がこの円筒分水に運ばれる。ここから用土各地の水田に一定の比率で分配される。

100 用土城跡

鉢形城主だった藤田康邦（用土新佐衛門）が北条氏邦に家督を譲った後の隠居所として築城された城と伝えられている。現在では後世に建てた石碑や地名が残り、付近のふれあいセンターの外観は用土城にちなみ、お城を模して造られている。